

センター国語注意報！

○センター試験の国語が、2017年1月に行われるセンター試験で難しくなると、福岡では言われております。久留米自習室から、東京大学文科Ⅱ類に合格した、つまり国語のスペシャリストの生徒が、古文32点、漢文38点と、64%~79%しか取れてないのです。東京大学に合格すらできない生徒たちにとって、センター試験の国語は手を出してはいけない教科になっていたわけです。この生徒のセンター国語の合計点は156点で、8割に届いていません。2000年に、東京大学理科Ⅰ類に合格した生徒は、センター国語の小説で、11点か12点でした。東京大学に合格する程度の努力では、20%しか得点できないのです。それがセンター試験の国語です。2016年に行われたセンター試験の国語は、難易度は良かったと思います。ただ、分量が少なすぎて、もう少し問題量を多くすると成績上位者には満足の行くテストになったでしょう。では、問題が難しく、何が問題なのかという点です。

○数学が難しい年は、文系の生徒が志望校を下げます。同じように、国語が難しい年は、理系の生徒たちが志望校を下げてくるのです。ゆえに、医学部希望の生徒たちは、東大や京大の理系に降りてきますし、東大や京大の生徒たちは九大などに降りてきます。ですから、センター国語だけが難しくなると、理系の生徒たちが全国で困る事態になるわけです。センターの数学が難しいままなのは、いつもの事なので、そういう安定しているのは混乱がありません。ただ、国語の場合は「難しくなったり」「易しくなったり」が極端なので、去年と同じつもりでいる子供たち受験の素人たちには、出願校選びで困るのです。

○なぜ、福岡県にいる私が、センター国語の事で嘔み付くのかと言いますと、大阪大学の理系がセンター国語の配点が異常に大きいのです。よって、関西の学生などが、大阪大学を諦めて、九州大学理系などに殺到してくるのです。九州大学の競争率が上がりますと、それを避けて福岡大学の理系や熊本大学、佐賀大学など、全員が志望校を下げる状況になるわけです。国語の配点の大きな大阪大学理系を避けるのが、大きな影響を与えています。

○久留米自習室から大阪大学工学部に合格した生徒のセンターの点数です。英語140点、国語130点、数学139点、社会77点、物理86点、化学85点。こんなに低くて、合格できる大学になっています。ここまでお読みであればわかると思いますが、センター国語が難しい年は、大阪大学の理系は受験生がいなくなります。よって、この生徒も九州大学工学部希望でしたが、大阪大学工学部に変更させて、合格させました。センター試験の国語製作者が、あくまで難しい問題ばかり出して、子供たちの人生を翻弄すると言うのであれば、我々大人がキチンと彼らの人生を導いて行く必要があります。つまり、もし、センター試験国語が難しくなるなら、逆に大阪大学理系が狙い目ですね。全国の受験生の皆様、センター試験の国語の問題が難しいというのであれば、逆に大阪大学理系が狙い目になりますから、そのつもりで準備しましょう！旧帝大の理系の中では、一番易しい大学になってくると思いますよ！センター試験生物（発展）も、異常に難しい問題を出しますから、今時それを選択する生徒はいないと思いますが、国語の場合は必修科目ですから仕方ないですね！センター試験国語の製作者たちの思惑で、人生を無為にしないようにしましょう！